

# 決着済みの「大阪都」構想

## 直ちに議論打ち止めを

大阪市を廃止・分割する「大阪都」構想の制度設計を議論する大都市制度特別区設置協議会(法定協)の第21回目の会合が8日、府庁内で開かれました。過去2回の法定協は公明党や自民党が提出した動議の採決をめぐる紛糾が散会しましたが、今回は副首都推進局に対する事務局質疑を再開。日本共産党大阪市議団の山中智子幹事長は意見表明で、これまでの議論で「大阪都」構想の問題には決着がついていないとし、法定協での議論は「ただちに打ち止めすべき」と主張しました。

ど、とんでもないことが行われていると指摘しました。

### 第21回法定協議 山中智子市議が表明

#### 「都」構想問題は結論が出ている

山中氏は、松井一朗知事や吉村洋文大阪市長が

住民投票実施に固執し、何が何でも議員の任期中に「特別区」設置協定書を手とめると言い出し、法定協の今井豊会長(維新府議)による独断的・

一方的な法定協の開催が繰り返されていることは「暴挙だ」と批判。運営でも自分たちに都合のよい動議は採決し、都合の悪い動議は採決しないなど、

「もう結論は出ている」と強調。「特別区」は自主財源の乏しい半人前の自治体で、庁舎建設やシステム改修、職員増などで膨大なコストがかかり、住民サービスは削らざるを得なくなるとし、

断じました。  
**市民も反対多数 潔く断念すべき**  
「都」構想は2015年の住民投票で否決され



法定協の第21回会合＝8日、府庁内

「謝罪」はしたが 動議採決を拒否  
今井会長らが「法定協は協定書を取りまとめるのが目的」などと繰り返していることを踏

て以来、大阪市民の間では一貫して反対多数であり、府市両議会でも反対が過半数に達していることが明らかにしているとし、「『都』構想が提案者にとって二丁目一番地

であろうが、(再挑戦が)選挙公約であろうが、潔く断念するのが至当だ」と述べました。  
「大阪都」構想をめぐるのは、昨年末以来、松井氏が公明党と交わした「今任期中で住民投票を実施すること」との「密約」を公表。それが実行されなければ「出直しダブル選」に打って出ることも示唆してきました。  
一連の動きに山中氏は、「民主主義も、市民的立場もなく、一片の道理もない。打算に基づく裏取引で、『都』構想の中身などどうでもいい、住民投票さえできればいい」という一事しかない」と厳しく批判しました。  
最後に、自民党が動議の取り扱いをめぐる動議を再び提出。これに対し、今井氏はこれまで同様、「(会長の)議事整理権を奪う」として採決を拒否し、一方的に会議を打ち切りました。